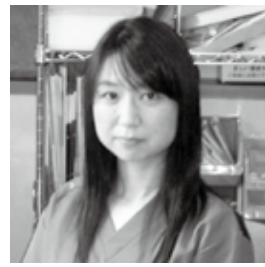


# 夏の皮膚病・水虫



西条市医師会会員  
浦部医院 内科・皮フ科  
浦部由佳里

## ●角質増殖型

足の裏から縁までガサガサして角質が厚く硬くなり、皮がむけたり、踵がひび割れたりします。かゆみがないため、水虫と思わず、乾燥による肌荒れと思ってしまうことがあるようです。

## ◆爪白癬

足白癬から爪の中に菌が入って感染します。爪の先が白く濁ることから始まり、だんだん根元に進んでいきます。爪が厚くなり、もろくボロボロと欠けたり、表面が凸凹したりします。爪の甲が黄褐色や黒褐色に変色します。

治療は塗り薬と飲み薬があります。

が多く、完全に治ったわけではないので、さらに1〜2カ月は外用を続けることが大切です。角質増殖型足白癬は塗り薬だけでは治りにくいことがあるので、角質軟化剤や飲み薬を一緒に使うこともあります。爪白癬の治療は飲み薬が基本です。

水虫の飲み薬には飲み合わせがあるので、受診の際には内服中の薬を必ず伝えてください。

検査は皮膚や爪の病変部を少量とり、顕微鏡で菌を見つめます。数分で結果は分かります。

家族に水虫患者がいると、感染する可能性があります。バスマットやスリッパなど、家族で共有するものからうつることが多くあります。そのほかにじゅうたんや畳、床などには白癬菌の混ざったホコリやゴミが落ちていて、そこから感染します。

家族内に水虫患者がいる場合には、同時に全員が治療を行います。バスマットやスリッパなどは頻回に洗濯し、日光で十分乾燥させることが必要です。部屋の掃除もこまめに行いましょう。

夏の皮膚病といえば水虫。水虫は白癬菌というカビ（真菌）が原因で起こる皮膚病です。

白癬菌が原因で起きる病気として、

- 頭部白癬（しらくも）
  - 体部白癬（ぜにたむし）
  - 股部白癬（いんきんたむし）
  - 足白癬（みずむし）
  - 爪白癬（爪みずむし）
- などがありますが、特に受診の多い足、爪の水虫について簡単に説明します。



## ●小水疱型

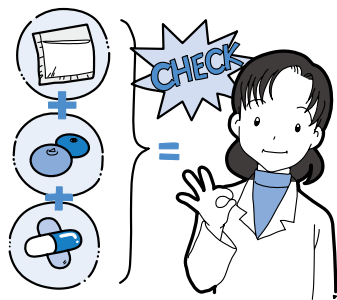
土ふまずや足の縁などに、小さな水ぶくれがたくさん集まってできます。水ぶくれが目立たず、薄く皮がむけるだけの場合もあります。かゆみが強いことが特徴です。水ぶくれの中の汁には白癬菌はいないため、この汁で水虫がうつることはありません。

## ●趾間型

足の指の間にできる水虫で、指の間が赤くなったり皮がむけたりします。また、皮が白くふやけたり、ただれたりすることもあります。多くはかゆみがあります。冬は症状が治まりますが、夏になると再発します。

薬を塗るのはお風呂上がり効果が的です。お風呂では石けんで指の間まできれいに洗い、十分乾燥させます。症状がある部位だけでなく、症状がなくても足底全体、足指の間、足の縁、土ふまず、アキレス腱の周囲までひろく塗りましょう。

また、症状がおさまったように思っても、角質層の深いところに菌が残っていることが多く、完全に治ったわけではないので、さらに1〜2カ月は外用を続けることが大切です。角質増殖型足白癬は塗り薬だけでは治りにくいことがあるので、角質軟化剤や飲み薬を一緒に使うこともあります。爪白癬の治療は飲み薬が基本です。



水虫は家族みんなですべて予防と治療を！

